会員の広場

ソウルで開催された国際学会に出席して

竹内清秀*・河村　武**

1985年5月20日から24日にわたって，「大気科学と大気質への応用（Atmospheric Sciences and Applications to Air Quality)」という国際学会が，韓国のソウルで開催された．筆者らは，国際プログラム委員会委員として当初から関係し，招待されて参加した．

参加国は約20，参加者は約100名．地元韓国の研究者の多いのは当然であるが，ついで米国，日本が多いように思われた．わが国からは，大喜多（国立公害研)，前田（東大医）の諸氏のほか気象研究所，公害資源研究所などから15名程度が参加した．

主催は韓国科学技術学会連合（Korean Federation of Science and Technology Societies）があたり，後援としては，韓国の科学技術省，環境庁，中央気象局などの省庁のほか韓国気象学会などの諸学会があたり，また国際機関の UNEP や WMO のほか，米国とカナダの気象学会や APCA（Air Pollution Control Association）も加わっている．この会の準備や運営にあたっては，カナダや米国などの在外韓国人の活動が目立った．

配布プログラムによる発表研究論文は112であり，それらが次の12の部会で発表された．その部会とは，(1) 都市と地域の大気質，(2) 大気汚染と都市気候/気象，(3) 大気境界層，(4) サンプリング，モニタリング，規制技術，(5) 大気質モデル，(6) 大規模輸送，地球規模大気質，気候変動，(7) 海洋大気相互の物質交換，(8) 酸性降水，(9) 大気化学と酸性雨モデル，(10) 健康福祉影響，(11) 環境影響評価と管理対策，(12) 総括　である．これらの部会のうち「大気境界層」では，22と発表論文が一番多く，測定とモデル作成の分野に再分類されていた．

韓国でこの種の国際学会が開催されるのは非常に珍しいことである．これも，次期オリンピックの開催をひかえて，国家意識の高揚の現れの一つと思われたが，筆者らだけの偏見であろうか．組織委員長の開会式の挨拶の中にも，ソウル・オリンピックの言葉が飛び出すほどであった．とにかく事務局の意気込みは大変なもので，この国際学会の成功の影の力となっていたことは言うまでもない．

発表論文は，雑誌 Atmospheric Environment に掲載されることになっている．なお，この国際学会を第1回として，つぎの開催を2年後カナダで行うことが，会場で話題となっていた．

* Kiyohide Takeuchi, 日本気象協会.
** Takeshi Kawamura, 筑波大学.

(634頁より続く)

＜国際宇宙技術講座のプログラム＞

1. Introductive Communication
2. Product assurance in the space field
3. Components
4. Electronic equipment packaging
5. Construction and failure analysis

なお，参加申込みの締切は，両方とも12月15日となっています．案内のコピーは天気編集委員会にありますが，詳しくは，下記に問い合わせて下さい（天気編集委員会).

Centre National d'Études Spatiales Département des Affaires Universitaires 18, avenue Edouard-Belin 31055　TOULOUSE Cedex (France)
Tel. 61.27.40.12-Telex 531 081 F